

様式（第8条関係）

審 議 結 果

次の審議を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和3年度 益田市男女共同参画審議会
開催日時	令和3年7月30日（金）午後1時30分から3時30分
開催場所	益田市総合福祉センター
出席者及び欠席者	○出席者 【審議会委員】 片岡委員（会長）、羽柴委員（副会長）、吉松委員、篠原委員、石橋委員、岡本委員、山本委員、原委員8名 【関係課】 田原連携のまちづくり推進課長、塩満人事課長、桂木危機管理課長、又賀子ども福祉課長、盆子原子ども家庭支援課長、齋藤子育て支援センター長、齋藤健康増進課長、桐木農林水産課長、中島障がい者福祉課長、山下高齢者福祉課長、田中美都総合支所地域振興課長、齋藤匹見総合支所地域振興課長、田原学校教育課長、大庭福祉総務課長、中島産業支援センター主査、長嶺教育総務課長16名 【事務局】 岡崎人権センター長、人権センター加藤主幹、栗山主査 3名 ○欠席者 福井委員、小川委員、田原委員 3名
議題	① 令和2年度事業実績及び進捗評価について ② 令和3年度事業計画について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0名
問合せ先	福祉環境部 人権センター 電話：0856-31-0412

経過

1 開会	
2 あいさつ	
事務局	会議の成立の報告 委員11名中8名の出席。規則第7条第2項に基づき本会議が成立
館長	第4次男女共同参画計画を策定の際には、ご意見、ご助言をいただき計画が策定できたことを改めて感謝し、お礼申し上げます。この間、内閣府では、2020年までに、女性管理職30%を達成するという目標が達成できないことに対して、2030年までの早い段階で達成するという方向が出された。男女共同参画のひ

	<p>とつの項目ではあるが、中々達成できないという状況にある。このように、日本の男女共同参画の遅れが取り上げられている。益田市でも昨年の市民意識調査の結果では、依然として男女の固定的性別役割分担意識が残っているという回答が多くみられた。引き続き、男女共同参画社会への取り組みを進めていく必要があると感じている。男女共同参画の推進については、第4次計画に引き継いでいる状況にあるが、本日の審議会では、第3次計画の最終年度となる令和2年度の実績報告及び、第4次計画の初年度である令和3年度の事業計画についての審議をお願いしたい。</p>
3 委員交代（任期途中）	
事務局	委員の交代があった。任期は残任期間となる。
4 委員自己紹介	
事務局	会議録・審議会委員名簿等の公式ウェブサイト掲載の承諾
5 議 事	<p>① 令和2年度事業実績及び進捗評価について</p> <p>② 令和3年度事業計画について</p>
会 長	<p>本年度から、第4次の益田市男女共同参画計画が始まっている。令和3年度の事業計画もあるが、まず最初に、令和2年度事業実績と進捗評価について、第3次の男女共同参画計画に基づいて事業を進めてきた観点から審議していただく。昨年度はコロナ禍で、計画の変更、中止など色々大変だったと思う。男女共同参画の計画は、現在、第4次計画となり、この間の取り組みにより、少しずつでも社会が変わっていることを実感しているところである。市民意識調査によれば、市民の意識が男女平等は常識的になってきているというところは評価できると思う。最近では、男女だけではなく、セクシュアルマイノリティの権利・人権というものに人々は敏感になってきている。そこは、これまでの実績だとも思っている。ただ、コロナ禍において明らかになったのは、例えば学校が休校になった時、子どもの世話、家族の世話というものが、相変わらず女性の責任、女性の役割という風になっていたり、経済的なダメージがひとり親のお母さんに皺寄せがいたりなど、未だに男女不平等。そういうジェンダーの考えというものが、深くあることも気づかされた。その状況の中で、各課は、浮き彫りになった男女共同参画の問題にも、取り組まなくてはならない状況だったと思う。取り組む中で、どういう工夫を考え、どういう問題に直面したのか、お聞きしたいと思っている。</p>
会 長	基本目標Ⅰ 男女の人権の尊重について 項目1～7
委 員	<p>項目7（研修会等の実施）</p> <p>研修会を行ったとある。民生委員は日々頑張っておられると思うが、困っている事は中々相談できにくいとも思う。相談のための研修だけではなく、困っている人が実際に民生委員に相談できる体制づくりやコミュニケーション。困っている人が相談しやすい人づくり、場づくりというのをしていただきたい。</p>
担当課	昨年は民生委員の研修会がコロナ禍で中々できなかった。今年に入り、各部会で

	<p>色々な研修をされている。その中で、「相談を受ける」という内容で研修を行う部会もある。民生委員に関するコマーシャルも TV で流れているが、なかなか手もない状況もある。実際に民生委員が不在な地区もある。各地区によって温度差もある。この点も検討しなければならない状況にある。委員が言われたように、積極的に部会でも研修を行い、新規の方も研修を受け相談にのるという体制を強化していこうと民生委員と話している。また、民生委員は守秘義務について心配されており、どこまで入っていいのか苦慮されている。相談の方法などについても、月に1回の定例会で実施していきたい。</p>
会 長	<p>民生委員の制度というのは、顔の見える地域での相談を受け付けたり、コミュニケーションをとって支えあったり、ということを期待されるが、最近の人間関係や、コミュニティの意識が薄れている中で、今後の課題だと思う。よろしく願いたい。</p>
委 員	<p>項目2（意識啓発の充実） 人権センターのパネル展示を、興味深く見た。コロナ禍だからだと思うが、人権センターだけの展示では勿体ないと思う。来年度になるかもしれないが、人権センター以外での展示が、今後計画されているのか。情報発信について、ホームページ、お知らせ放送、ひとまるビジョン、それ以外に、より効果的に情報拡散する計画があるのか聞きたい。 <u>※1項目5（学習機会の提供）</u> 生徒を含めた、いろいろな意見交換が行われていると思うが、若い時代からの男女共同参画そのものに対しての知見を深める中で、カタリ場の中で、男女共同参画そのものをテーマにした取組みが行われていたのか。今後も、行われていくのかを知りたい。</p>
会 長	<p>最初、項目2については答えていただき。<u>※1項目5については、本日担当課は欠席ということで、後日の回答とする。</u></p>
担当課	<p>（項目2）パネル展示について、当面は人権センターだけでと考えていたが、できるだけ幅広い展示を考えていきたい。情報発信の手法だが、市役所の中で発信できるツールは限られている。グループサイトのPR、広報が中心にはなるが、頻度を上げる等、考えていかなければと思う。</p>
委 員	<p>私も人権センターのパネル展示は、パネルは10数枚で、いい意味で簡単でわかり易いと思った。ここだけでは人の出入りも少なく、勿体ないと思った。実際にはコロナ禍で集まることが難しいが、自治会では、月1回の常会の出入りに展示だけでもしておけば、さらっとでも見て印象に残してもらうこともできる。研修は構えてしまうので、簡単に貸し出しができるなら、やってみてもいいのかなと思った。</p>
会 長	<p>大変貴重な、提起だったと思う。</p>
担当課	<p>意識調査の中から抜粋する形にはなるが、第4次男女共同参画計画の周知も併せ</p>

	て、ダイジェスト版を検討し、皆様にお知らせしたいと思っている。できた折には、周知にご協力をお願いしたい。
委員	項目4（教職員に対する男女共同参画の意識づくり） 人権・同和教育研修会について、資料の実績にあるように、去年DVDによる研修を校内で行い、凄く効果的であったという声も聞いている。今後DVDによる研修と、実際の講演会の研修と両方やってくるのか、どちらかにシフトしていくのか。メリット・デメリットがあるかと思うが、どのように考えているのか。
担当課	学校単位でのDVD研修は、視聴後の意見交換により、校内での共通認識がもてよかったと聞いている。DVDの研修を今年度も予定している。委員が言われるように、参集型の講演、研修も、非常に大事な機会の場合だと思うので、回数が多い少ないはあるかもしれないが、両方を考えていきたい。
会長	基本目標Ⅱ 安心・安全な暮らしの実現 項目8～21
委員	項目14（健康の保持増進） 男性の参加者が少ない、いかに効果的な場所で行うかが課題として書いてある。昨日、ひだまりパークで、「グランドゴルフの大会が無い時に、何かすることはないだろうか」という相談を受けた。スタッフは、健康増進を熱心に考えていた。グランドゴルフ以外のスポーツや、体力測定、健康診断的なものなど、通常は公民館を会場に実施されているが、ひだまりパークは男性の利用が6～7割でもあり、ポイント制や競技的なことも取り入れるなど、健康に関しての意識をあげるきっかけに、健康教室や、体力測定等ができればと思うがどうだろうか。
担当課	特に男性は、ポイントや、結果が分かる内容のものを好まれる傾向がデータにある。色々な場所でも健康教室を行っており、脳卒中の話等、基本的には地域の方々、各地区に健康のルールを伝えている。小さな規模の会もある。また、各地域の活動に対して、要請があれば講演、血圧測定等も行っている。委員の提案についても、色々なルートから、同様な事案をいただいている。「ひだまりパーク」についても、全体に含めた検討中である。すぐにはならず、断定的な発言はできないが、継続し検討をしたい。
会長	健康増進のために参加される方がおられればいいと思う。
委員	項目9（若年層への意識啓発） DVを受けたものが、自分は受けていると認識するのか、認識していないのかということが、随分問題になっており、コロナ禍でのDVが一層増えていると報道されている。自分はDVを受けているのだという認識をきちんと持つような、子ども達、大人たちを育ててほしいと思う。 項目14（健康の保持増進） 項目14では、「男性の参加が少ない」となっている。項目39の自主防災組織のところでは、「女性の参画が少ない」とある。なぜかなという疑問を持った。

委員	<p>項目15 (子どもと母親の健康支援)</p> <p>子育て支援というのは、随分母親の負担が大きいと思うが、子育て支援に父親をどの様に絡ませて子育てしていくか、求められると思う。そういう支援が必要ではないかと思う。</p> <p>項目17 (自立のための支援)</p> <p>「ひとり親家庭等の自立と就業の促進」で、男女の比率はどうなっているのか。</p> <p>項目18(関係機関との連携)</p> <p>「保護者中心の活動に変えて取り組んだ」とあるが、どういう意図で変えたのか。</p>
会長	<p>自分が被害を受けている認識がある人もいるが、ない人も結構いて、1人で孤立し、悩んで大変なことになっていることが、まだまだあるということに関して、情報等あれば教えていただきたい。私からも昨年はコロナ禍で深刻な状況となり、実際相談件数が増えているのか、状況についても報告していただきたい。</p>
担当課	<p>若年層の意識啓発では、学校を通して子どもたちの人権意識を育て、デートDVに気づき学ぶための学校支援として、人権センターが教職員を対象にデートDVの研修を実施している。昨年度はコロナ禍ではあったが、県女性相談センターを講師に、支援加配推進者の協力を得て実施した。授業の実際を研修内容として、県が作成したマニュアルとデートDVに関する教材を使い実施した。研修参加者の内、3校が取り組みを計画し、2校が実施済、1校は令和3年度に実施予定である。</p>
担当課	<p>コロナが直接要因と思われるDV相談は、人権センターには入っていない。他の機関、児童相談所等の相談件数については、把握しておらず申し訳ない。</p>
委員	<p>若年層からのデートDV、非常に大きな問題だと思う。学校でも色々な形で、教科の中で取り組んでいるが、担任でも中々取り組みにくいのではないかと思う。先ほど、DVD研修とあったが、啓発のきっかけ、授業のきっかけとなるようなものがあれば、積極的に紹介していただいて、周知するだけでも違うのかなと思う。</p>
担当課	<p>デートDVそのものを取り上げるのは、中学校が中心になるかと思う。すでに県から各学校にDVDと使用マニュアルが配布されている。昨年度は、それを用いた研修を行った。また、選択制ではあるが、項目2の人権研修対象DVD4本のうち1本は、県作製のデートDVのDVDである。今年度もデートDVのDVDを研修対象に入れ、周知し継続している。</p>
担当課	<p>女性相談をおこなっているが、人権センター同様、直接的にコロナにおけるDVの相談はなかった。日頃からの女性相談はあった。件数としても、対応件数は微増だが、実人数としては、例年と同じくらいである。</p>
会長	<p>引き続き対応をお願いしたい。</p> <p>項目14 女性は健康に関することには参加するが、男性は反応が薄い。逆に防災関係では男性の参加はあるが、女性の参加は少ない。この対照的な傾向について</p>

	何か感じる場所があれば、教えていただきたい。
担当課	アンケートでは、仕事がある、用事があるという回答が多い。感じることは、健康増進という一つの目的はあるが、集まって話をするのが楽しいと、特に女性の方から聞く。察するに、そういう理由もあり、女性の参画率が高いのか、または、壮年期高齢者をターゲットにしてはいるが、平均寿命、地域ごとの年齢構成も女性の割合が多いからか、とも思う。
担当課	自主防災組織は、自治会の中で構成されており、自治会長、その下に役員を配置するが、地区内の組長等をお願いするので、今の自治会の役員構成のバランスは男性が多いので、自主防災組織もそのようになっているのだと思う。
会長	組織、構造的なものが影響しているのではということである。健康はケアに関わること、防災は命を守ることに共通はしているが、消防団という流れがあり、依然として男女の固定的な役割意識が関係しているのかもしれない。そういうことも考えながら、今後の活動を男女が平等になるよう、どのように広めていくかということも考えて行かなければと思った。 項目17 自立のための支援のひとり親家庭の男女比率についてなど、情報があれば教えていただきたい。
担当課	男女比率について、児童扶養手当受給の家庭については女性が多く、男性については数%と思っている。「高等職業訓練給付金」、「自立支援教育訓練給付金」、「交通遺児手当給付金」は全員女性である。「高等職業訓練給付金」の対象は女性ではないが、対象となる職業について、看護師等が対象となっており、そうした傾向になると思われる。※2「小・中学校入学支度金」については、保護者ということになるので、 <u>具体的な数字を持ち合わせていない。別途、事務局に報告させていただきます。</u>
会長	項目18 関係機関との連携で「保護者中心の活動に変え、取り組んだ」という点について説明をいただきたい。
担当課	「ニコニコの部屋」については、子どもさんも合わせた活動の場であったが、外国人の方については、子どもさんの言葉の問題もあり、まずは保護者の方でしっかりコミュニケーションが取られるようにという中で、こうした活動となった。少し形を変えて、外国人の方だけということではないが、今回はこういう形になっている。
委員	項目8 (意識啓発と予防の充実) ハラスメント・DV被害が1割を超えているというデータがあり、被害者が、10人に1人の割合でいるということである。一方では相談窓口を知らないという人が6割というデータが載っている。非常に大きな数字だと思う。その中で啓発活動として、市のホームページでは行われているが、講演会等の啓発活動はコロナで中止になったものが、結構あるようだ。ホームページは、見に行かなくては見えない情報だし、見づらいということもあるので、啓発活動は、工夫を凝らし、

	できるだけ多くの方に実態や相談窓口がわかるようにしていただきたい。
担当課	ホームページは見づらいということで、街頭活動や、広報などの方法はとっている。また、トイレに名刺大のDV相談窓口のチラシを置くなどしてはいるが、市内全域とはなっていない点もある。皆さんの手に取りやすい形、意識しやすい場所での周知を考えながら進めていきたい。
委員	項目9（若年層への意識啓発） 先ほども出ていたが、デートDVについて、DVを受けていることが認識できていないケースがあるという話があったが、ともすると犯罪者や、ストーカーにもつながる。重いことだという意識、理解を深めるために、警察の方を講師に学校に来てもらうことも、重く受け止める方法だと思う。その一方で、デートDVがありうることにについて、お子さんの孤独な心情を支える受け皿としての、家庭環境や社会一般の方とのつながりが必要であると思う。
会長	おっしゃる通りだと思う。色々な視点から、問題を考えていくことは大切なことだと思う。担当課から何か、感想なり、これからの展望があれば願う。
担当課	確かに警察官が言うことは子どもたちへのインパクトは大きいと思う。大きくなりすぎないことも含め、他の機関との関係も含め、学校関係者とも検討していきたい。また、子どもの心情をつかむことは大切で、学校では、担任の先生や周りの先生が、色々な話を聞き、家庭環境、子どもの心情をつかんでいらっしゃるようだ。そういう心情を共有しながらデートDV・DVが進んでいかない社会づくりを行いたい。
委員	項目15（子どもと母親の健康支援） 子どもと母親の健康支援で、母親が接する機会が多い中、今現在、男性が育児に関わっている率、育児休業の取得率はどのくらいか。
会長	男性の育児休業の取得率について願う。
担当課	市職員の育児休暇育児休業しかわからないが、最近男性の育児休業の取得は非常に増えている。女性の場合、1年の取得が通常になっているが、男性は1年取ることはなく、1ヵ月から長くて3ヵ月で、女性より短い。率としては、手元に資料がなく断定はできないが、男性職員の7～8割が取得していると記憶している。
会長	市の職員の中では、男性の育児休業取得が少しずつ進んでいるということである。率先して進めないといけないと思う。引き続き、促進していただきたい。
委員	項目13（性教育の実施） 事業計画の「道徳の授業として教育委家庭の中で実施」は、記述ミスだと思うのだが、教えていただきたい。
担当課	「教育委家庭」は「教育課程」に訂正をお願いしたい。
会長	基本目標Ⅲ あらゆる分野における女性の活躍 項目22～31

委員	<p>項目16 (自立のための支援)</p> <p>要保護児童対策地域協議会の実施状況で、確かに学校において困難な状況に置かれているひとり親家庭の案件が大分増えている。評価・課題に「会議等通して関係機関」と記載があるが、情報共有ができて、どのように支援したらよいか、凄く課題が大きいのではないかと。一件で何回も会議が必要なこともあり、そうした意味で、要保護児童対策協議会では課題をどう捉えておられるのか。</p>
担当課	<p>複雑な問題、複合的な問題を抱えているケースがある。問題を解決する中では、学校とだけではなかなか難しく、要保護児童対策地域協議会で、必要などころと連携を取りながら、進んでいるのが現状である。複合的な課題を持たない家庭を作るというところが、重要だが、どうしたらそうならないかという分析はできていない。問題解決にあたっては、会議を重ね、意見を出し合いながら対策を取っているのが現状である。色々な関係機関が入っており、社会機構等の中で、解決策を検討したいと思っている。</p>
会長	<p>個別支援検討会議の数が凄く数で125回となっており、色々な問題を抱えておられるのだと思う。</p>
委員	<p>項目22 (審議会等への女性の積極的登用)</p> <p>7月中旬の新聞に島根県の県審議会の女性参加率が47%という記事が出ていた。島根県は全国3番目で、3位くらいの高水準だが、益田市の現在の状況は、目標40%で、まだ30%に満たない状況だ。取り組みはしているのだと思うが、県とはこういう問題や違いがあって、なかなか進まないことがあれば教えていただきたい。</p>
担当課	<p>委員が言われるように、県の率は高い。県は女性の登用率40%を超えるということについて、当時の男女共同参画室を中心に、委員について、委員総数の男女数が、どちらかが、10分の4を下回らないという形で、全庁的に力を入れ取り組まれたと聞いている。</p>
会長	<p>どこか他の課で、こういう工夫をしているところがあれば教えていただきたい。</p>
担当課	<p>益田市の男女共同参画審議会について、市条例の中に「男女いずれか一方の委員の数は、委員総数の10分の4未満であってはならない」ことが示されている。</p>
会長	<p>目標40%は、なかなか実現ができない。毎回毎回問題になるが、大変な苦勞をされていると思う。引き続き目標40%に向かって取り組みを何とかしていただきたいと思う。</p>
委員	<p>項目26 (農林漁業団体への女性の参画拡大)</p> <p>評価・課題のところに、協議会、委員会への女性の参加を積極的に進めていくとあるが、具体的にはどのような方法で進めていくのか。</p>
担当課	<p>検討委員会などの集まる機会や各会議で積極的に行い、協力もお願いした。中々女性の構成員が増えていない現状だが、引き続き依頼をすとか情報提供することによって、女性の方の参画を進めていきたい。</p>

委員	項目29 (働きやすい職場環境づくりへの支援) ますだ子育て応援宣言企業登録者数が、令和2年度20社から48社になった。何かあっていい方向に行ったのかと興味がある。何かあれば他の施策にも生かせると思うが、教えていただきたい。
担当課	益田市に簡易郵便局が10カ所以上あるが、組織的な対応により、全局に打診していただき、まとめて企業の加入の登録があった。大きい組織への働きかけが、施策の取り組みに繋がったところである。
委員	他にも同じ様に、組織的な働きかけをして何かよりよい効果があるかもしれないので、我慢強くやっていただきたい。
委員	項目25 (地域における女性の参画拡大) 社会教育コーディネーターのことが記載されているが、豊川地区に住んでいて、豊川小学校にも2代目のコーディネーターがおられる。非常に効率的、効果的でいいことだ。本当に地域で活躍され、学校と地域の関係を取り持って、非常によくやってもらっている。今後とも計画的にしっかり維持していただければありがたい。
会長	担当課不在だが、伝えていただければと思う。
会長	基本目標Ⅳ 男女共同参画社会の実現に向けた環境整備 項目32～40
委員	項目36 (介護に関する知識の普及と心理的支援) リフレッシュ事業での家族介護者教室の開催について、令和2年度事業実績、「市内2カ所の事業所において」とあるが、過去の状況を見ると大分事業所が少ないが、これはコロナの関係で事業所のスタッフが減ったのか、対応するところが減ったのか、先細りのものなのかを教えていただきたい。
担当課	例年は市内10カ所程度の介護事業所で実施をされている。令和2年度2カ所というのは、コロナの影響を受けている。このリフレッシュ事業については、会食、介護事業の講習、旅行など、人が集まったの活動が多く、コロナ禍で制限もあり実施事業所が少なかった。
委員	コロナ禍でできなかったのは分かるが、その中でも何か話したいとか、相談したいという方はおられると思う。何か工夫した点や、開催できないながら、何か代替の案とかはなかったのか。
担当課	益田市の場合は、コロナが発生しても通常の介護サービスを継続し、日々介護が必要な方がいるので、様々な工夫を凝らし、感染拡大防止に気を付けながら事業所にサービス継続をしていただいた。まずはそちらを優先していただいた。 記載をしてないが、介護者については、市内の通所介護事業所や、地域を限定して人がお集まりになる場所を活用した、認知症カフェが地域に8カ所ある。しづらさはあったが、感染防止対策を行い、当初は閉鎖をしていたものの、徐々に留意しながら実施していただいた。感染状況にもよるが、現在では、拡大防止対策をしながら、出来る限り入所者の方々のリフレッシュに繋がるよう、環境整備

	に留意していただいたところである。
委員	項目38（防災対策に関する男女共同参画の意識啓発） 昨年、危機管理課に女性職員がおられないと聞いたが、今年はおられるか。
担当課	正規職員としては男性ばかりである。
委員	避難訓練など、女性の視点による計画を立てにくい状況にあるのでは。項目23で女性の管理職はおられるが、各課で男性・女性で色々な視点があるので、そういうところの人事もやって欲しいと思う。項目38の訓練を行うための話し合いについては、女性の参加はあったのか。
担当課	公民館が避難場所になるので、公民館職員に参加をしてもらい、意見を聞いた。
担当課	過去、危機管理課ではなく、地域振興課で市民安全係という形で、危機管理があった時代もある。そこまで遡れば、女性職員を配置していたこともある。男女共同参画ということで、それぞれの職場に女性・男性を割当てるということを念頭に置きながらではあるが、危機管理課が全体で5人で消防・警察からの出向も2人いるということもあり、年齢構成等も考えた中で女性が入っていない実態もある。避難訓練等、実際に避難をするケース、色々な計画においては、実際に女性管理職の意見も踏まえながら計画し、思慮している。男性の視点だけでもものを作っているということの無いように気をつけている。
会長	各課の男女の比率にも配慮していただけたらと思う。
委員	項目35（交流機会や相談の場の提供） 妊娠期・0歳児からの利用促進について、最近本当に核家族化が進み、先ほどひとり親家庭の話もあったが、こういう支援はとても大事だと思っている。昨年度は、実施回数が減っているようだが、実際どのくらいの方が利用して、どのくらい増えているのか、若い方たちにどういう周知されているのか、若い教員に聴いたら知らなかった。これから若い人たちにどういう周知をされていくのか。
担当課	気軽に相談できる場として子育て支援センターがある。コロナ禍で一般利用を中止した日々があったが、結果的に前年度の6割くらいの利用があった。 その中で、気軽に相談できる場として、職員が対応し、乳幼児健康相談日には、保健師・栄養士・助産師を配置し対応した。また、育児休業中の方の方に赤ちゃんルームという時間を設け、子育てや、子どもの発達に関する悩みについて助産師を配置し対応した。実際の相談件数は前年度より少なくなったが、相談できる場、色々な検診の場があることは、ホームページ、毎月出しているお便りで広報している。
会長	コロナ禍で、大変ではあると思うが、できるだけことはして頂きたいと思う。 以上で、第3次益田市男女共同参画の事業実績及び進捗評価の審議を終わる。
議事	②令和3年度事業計画について
会長	今年度の事業計画は新しい基本計画に基づく事業計画になるが、基本的には目指

	しているものは同じなので、今までの形で展開していくものだと思うが、ご意見があればよろしくお願ひしたい。
委員	事業計画に、パンフレット配布の取り組みが数多くあるが、パンフレットを配る時、配った後の対応に工夫が必要だと感じた。随分各課に記述があるが、どういう内容で、どういう配り方をしたのか、配った後どう変わったか、どう工夫したかを、評価と課題の中にあげていただきたい。
会長	パンフレットやリーフレットなど、配布事業を人権センターでもあげているが、その評価とか実績についてどのように考えておられるか。
担当課	パンフレットを配布して、中身を読みどう感じたかというアンケートのような評価をもらうというのは、中々難しいことだと思っている。配り方については、例えばコロナの関係もあり、渡し方もどうすれば手に取っていただけるかということもある。中々難しいことだと思うが、努めていきたい。
会長	もらっても見てもらわなくては意味がない。どういう事業なのか、こういう窓口があるということを伝えるための道具だと思ひるので、それが相談件数に反映されるのかというところが、評価になってくると思ひ、よろしくお願ひしたい。
委員	項目23 (女性の管理職等への登用促進) 目標は達成できている反面、精神的な負担などの声もある。どうフォローして関わっていくかも継続的課題である。そういう状況があり、令和3年度の計画として取り上げられている。やはり、要職になると責任も付いて回り、中々軽減するというのは難しい面もあると思ひますが、女性の職員同士の思ひの分かち合いの場をつくることや、このことは、県や他の市町でも、同じような状況があると思ひるので、他ではどうされているのかなど、どうしたら解決の糸口になるのかと思ひ。何か、お考えがあったら聞いてみたい。
担当課	率として、目標自体は達成している。女性職員が増えており、管理職だけでなく、補佐・係長という役職の女性の数が増えている実態がある。役職に就くことへの不安は、女性だけではなく、男性も含めて多くなっていると思ひ。令和2年度の実績に記載したが、研修等で、職場や対人関係のマネジメントを学ぶことが一つと、委員にも言っていたが、横のつながりで人と話ができるといいと思ひている。組織として、定期的にそういう機会を作ることは中々難しくはあるが、管理職同士では年齢も近いこともあり、なんらかの話をしているということも聞く。こちらが声を掛けるだけではなく、組織の中でそういう形でできれば良いと思ひ。
委員	項目21 (障がい者(障がい児)福祉サービスの充実) 障がい者支援で、学校で、障がいのある児童・生徒に対する家族もそうだがケアが重要になっている状況の中で、放課後デイサービスなどは非常に意味がある取り組みだと思ひている。充実の方向や、課題など、考えておられるか。
担当課	利用人数は増加傾向にある。それに応じて事業者も増えている状況。利用者にと

	<p>っては保護者の通勤も踏まえながら、選択肢は増えていると思う。色々な企業をコーディネートし、一番使いやすいようにということで満足もされている。人数的には大丈夫な状況。後は事業者の参加がどうかだが、今のところ利用者と事業者の数はいいくらいで進んでいる。</p>
委員	<p>項目13（性教育の実施） 学校における性教育を実施について、教育課程の中で保健体育の授業で、最近低学年で保健があるのか。</p>
担当課	<p>保健体育の授業として記載しているが、小学校の低学年では、保健体育の授業はない。生活科とか社会科とか道徳のところ、そういう活動を行っている。表現が曖昧で申し訳ない。</p>
委員	<p>項目35（介護に関する知識の普及と心理的支援） 介護支援の充実で、市民アンケートでは、介護の問題が上位を占めていると思うが、介護イコール女性という認識がまだまだ強いように思う。男性の参画に触れた事業展開にして頂いたらと思う。男性の参画を支援する方策というものはあるのか。</p>
担当課	<p>代表的な事業として、認知症サポーター講座で認知症サポーターを要請している、6割強が女性だが、4割に満たないが、男性の出席もしていただいている。女性ばかりの会ではなく、企業の方、会社の仲間などにも声をかけさせていただき、男性にも介護の状況や、相談窓口を周知している。少しずつ積み重ねながら、男性の参画への声掛けをつづけていきたい。</p>
会長	<p>以上で、本年度の事業計画についての審議を終了する。</p>
事務局	<p>ご審議いただいた中で、項目17, 5については、協働のひとりづくり推進課についてのご意見につきましては、後日回答させていただきたい。子ども福祉課の数値につきましても、後日回答させていただく。項目25についての評価についても、事務局から協働のひとりづくり推進課に伝えたい。</p>
議事終了	
その他	<p>しまね女性センターの図書利用について(お知らせ)</p>

令和2年度事業実績についての後日回答について

※1 項目5

〔ご意見〕

益田版カタリ場について

生徒を含めた、いろいろな意見交換が行われていると思うが、若い時代からの男女共同参画そのものに対しての知見を深める中でカタリ場の中で、男女共同参画そのものをテーマにした取り組みが行われていたのか。今後も、行われていくのかを知りたい。

〔回 答〕

益田版カタリ場は子どもたちが地域住民等との「対話」を通し、自らのこれまでの人生を振り返り、今の自分と向き合い、これからの目標について考える授業であり、語り合うテーマは「これまでの人生と、これからどうありたいか」です。

従って、男女共同参画そのものをテーマとした対話を行うわけではありませんが、性別や年齢に関わらない多様な人が集い、誰もが発言に対し否定するのではなく認めあう場がつけられ、実践されていることから、固定的な性別役割分担意識をはじめとした、「こうあるべき」という考え方を手放す取り組みとして、有益であると考えています。

よって、今後も引き続き実施をしていきたいと考えています。

※2 項目17

〔ご意見〕

自立のための支援のひとり親家庭の情報があれば教えていただきたい。（未回答部分）

〔回 答〕

母子父子家庭小・中学校入学支度金支給者

小学校：22人 110,000円

中学校：34人 170,000円

合計：56人 280,000円